

SSKW

海から海へ

No.24 2010.5.19

【編集人】

特定非営利活動法人 海から海へ
〒182-0024 東京都調布市布田 1-32-5
マートルコート調布 407
Tel 042-441-2958 Fax 042-497-4878
<http://umi.or.jp> office@umi.or.jp



鯉 A Carp 727x910 1994 © Mizuki Tanaka

海から海へは、障がいをもつ人から渡される豊富なものの存在に気づき、人々と共有するため、障がいをもつ人を中心とした、文化芸術活動、研究活動、社会教育活動、心理カウンセリングなどの支援活動を行うこと、および、それらの活動を通し、障がいの有無にかかわらず、地域・国内・国外を問わず広く交流を深め、人々がより良く生きることに貢献することを目的として活動しています。

講演「子育ては食育から」

- 心を育てる・家族を育てる・食卓 -

聖徳大学児童学部児童学科教授 室田洋子先生

2010年3月7日(日) 13:30~15:30

電気通信大学創立80周年記念会館3階フォーラム

主催：特定非営利活動法人海から海へ

平成21年度調布市社会教育関係団体補助金事業



会場入口(電気通信大学正門)

本法人は、調布市の社会教育関係団体補助金交付事業として、シンポジウム「愛のあるコミュニティへ向けて」(2005年度)、講演会「バリアフリーの社会を目指して」(2006年度)、ワークショップ「親子の上手なコミュニケーション講座」(2007年度)、ワークショップ「夫婦コミュニケーション講座」(2008年度)を開催してきました。

本年度は、「食べる」をキーワードに、いま、子どもたちの食事はどうなっているのか、子育てと食事との関係はどうか、食卓は家族の姿としてみるとどうか、などの視点から、聖徳大学教授 室田洋子先生をお招きし、子どもの食事をめぐる現状を分析するとともに、改善の方向性について、お話をいただきました。

幼児から小学校、中学校、高校生までのお子さんをお持ちの親御さんが多数参加され、講演のあとのティータイムでは、参加の皆さんから講演の感想をお話していただき、室田先生からアドバイスをいただきました。



会場建物(電気通信大学創立80周年記念会館)

室田先生の講演レジュメから

食事・食卓は、人間関係を凝縮し、人間関係の質を象徴的にあらわしています。暖かく、賑やかで、安心でき、センスがあり、新鮮な話題のある食卓は、心を育てますが、寂しく、疲れる 緊張し、いたたまれない食卓は、心を破壊します。食卓は、メタコミュニケーション(言語外交信)という心理的機能を持ち、基本的信頼感(basic trust)を育てます。

食卓で人は何を食べるのでしょうか。

KFD(kinetic family drawings 動的家族画)という描画テストから多くのことが分かります。弧食、子食、粉食、固食、個食の様子が見て取れます。食卓におけるコミュニケーション能力の低下により、家族機能が損なわれています。

食を柱に据えた縦横な活動が求められています。

- ①健康の理解：食のバランス・健康を心得た食生活、食材の理解・管理・安全・衛生
- ②人とのコミュニケーション：共に食べる・共に作る・かかわり活動の中に食をおく
- ③環境の認知：生活環境、食の自給率、食用・薬用・毒の物を探索し見分ける
- ④自己価値感・効力感：意欲、達成感、役に立つ自分の確認体験
- ⑤教育ファーム、クッキング体験、ビュッフェ形式の食事、パイキング食事、屋外探索お散歩保育時の食への出会い採取、畑の管理と収穫の体験、地域との連携

今後はこのような活動を積極的に進めていくことが必要です。



講演会



室田先生との質疑応答

室田洋子先生プロフィール

聖徳大学児童学部児童学科教授。

専門は発達・臨床心理学(臨床心理士)。お茶の水女子大学卒業 同大学院修了。桜美林大学講師、青葉学園短期大学教授を経て、聖徳大学教授。大学の教員に並行して教育相談、心理臨床活動を継続。(杉並区立済美教育研究所、横浜市緑区緑保健所の教育相談、発達相談を20年余継続した。現在はフィッシャー教育相談室、多摩大学カウンセリングルーム主宰)。東京都在住。



講演後のティータイム



講演の感想を話す参加者の皆さん

著書

「心を育てる食卓」、「家族を育てる食卓」、「心を癒す食卓」、「食べない食欲のない子なぜ」、「Q&A 子どもの心身の発達と食事」、「子どもの偏食、野菜嫌い」、「食卓から見える子どもの心、家族の姿」以上芽ばえ社、「子どもの教育相談室」金子書房、「生活者としての人間発達」家政教育社、「子どもの理解と発達の援助」東京教科書出版、「図解—心理学」、「発達と教育の心理学」以上学術図書出版、「小さなコスモス—家族とは」実教出版、「みんなで食べる楽しい子どもの食生活」合同出版、「見つけよう。自分流子育て」PHP 研究所出版、「好き嫌いをなくす幼児食」女子栄養大学出版、「福祉のための心理学」保育出版社、「教育情報ハンドブック」コレール社、「はじめて出会う 育児の百科」小学館、「0歳児・1歳児・2歳児のための乳児保育」光生館、「こっち向いてよ—食卓の絵が伝える子供の心—」幸書房、「それでも 好きなものだけ 食べさせますか？」NHK出版、「乳幼児の食行動と食支援」医歯薬出版、「子育てレインボウ」ベネッセコーポレーション、「食卓の力で子どもが変わった！」カンゼン、「食卓から見える子どもの心、家族の姿」朝日小学生新聞に連載中。

講演では、室田先生は、たくさんのケースから、決まった時間に家族が顔をあわせる食卓は、基本的な信頼感を育む安心な場所として、とても大事ということをはっきりと説明されました。

好き嫌いがある時に気をつけるべき態度とは？父親に「楽しく食事をする」ことの大切さを理解してもらうにはどうしたらよいか？など、多数のご質問があり、室田先生は、ひとつひとつ丁寧にお答えくださいました。

障がいをもつ人のアート活動を支援する社会福祉法人東京コロニーのアートビリティ事務局岡嶋さんと中島さんが、野辺山で開催された「田中瑞木美術館展」と調布の田中瑞木美術館の訪問記を書かれました。「アートビリティ通信 No.7」(2010年3月20日発行)から、許可を得て転載いたします。

みーちゃんは凄いい!

「田中瑞木美術館展」

期間：2009年7月25日～10月12日
場所：南牧村美術民俗資料館(野辺山高原)

昨年の夏から秋にかけて、信州野辺山高原で田中瑞木さんの原画展が開催されました。美術館まるごと全部、田中さんの作品が50点以上も展示されるとあって、これはぜひ見に行かなくてはと思った岡嶋(アートビリティ事務局スタッフ)が、9月の連休を利用して野辺山高原を訪れました。



広い会場、圧巻の50作品!

八ヶ岳の麓、野辺山高原駅のすぐ目の前に、「南牧村美術民俗資料館」があります。入口に向かうと、「田中瑞木美術館展」と大きな横断幕がかかけられ、この原画展の扱いの大きさがうかがえます。

美術館の中は広くゆったりとしていて、天井も高く開放感があり、正倉、建物の外見からは想像もつかないような立派な内装!このスペースまるごと全部が、田中さんの作品で埋められているという、作家であれば誰もが夢見るような最高に贅沢な空間が広がっています。大型連休の最中ということで、訪れる人もひっきりな

に画展でした。

田中瑞木さんの日常

来客が少し途切れた合間をぬって、田中さんにご両親にお話を伺うことができ、ふだんの生活や素顔にもふれることができ、とってもラッキーでした。

この原画展が実現したのは、南牧村美術民俗資料館のスタッフで、企画を担当されているO氏が、東京の画廊で偶然に田中さんの作品が掲載されているパンフレットを見たことがきっかけだったそうです。

パンフレットに載った絵から絵のすばらしさを感じたO氏もさることながら、一瞬で人の心をつかんでしまう田中さんの作品の力に驚かされます。

また、展示されている作品のほとんどが手作りの額に入っていて、「額こはこだわっています」と、お母様の愛子さんがおっしゃるとおり、作品は額と一体となつて一つの世界を醸し出しています。



し。駅から徒歩1分というアクセスの良さも手伝い、観光客の姿も目につきます。また、周辺地域のお店や宿泊所へ、チラシを携えながらのご両親の足を使ったPR活動も功を奏し、地元の人たちからの応援もたくさんあったようです。

「この原画展で、またたくさんの人とのつながりを持つことができました」と、ご両親がしみじみ感謝の気持ちを語っておられました。

広い会場にもけって負けない、迫力のある作品がバラエティ豊かに展示され、見ごたえのある圧巻の原

この手作りの額は、愛子さんの昔の仕事場でもある材木屋の社長さんが、田中さんの作品の大ファンで、自ら制作を買って出てくださいましたのだとか。

田中さんやご両親の人徳なのでしょう。ほんとうに「田中瑞木美術館展」は、たくさんの方々どつながり、支えられているのだなと実感しました。

それから、田中さんの作品を語る上でもう一つ欠かせないのが、明確でありながら、遊び心にあふれたタイトルです。これは、愛子さんが田中さんと話し合っ、本人の気持ちをくみ取りながらつづけているのだそうです。



左からお父様、瑞木さん、お母様

さて、現在の田中さんの生活は、月曜日から金曜日まではグループホームで生活し、そこから仕事場である老人ホームに通い、朝9時から4時まで家事サポートスタッフとして働いています。まじめできちんとした仕事ぶりが評価され、仕事場での人気はなかなかのもの。グループホームでも、いっしょに暮らす仲間洗濯物をきれいにたたむなど、田中さんはかなりの働き者のようです。

そして、土日はご両親といっしょに自宅で過ごします。

田中瑞木美術館訪問

「生まれ変わって子どもを産むとしたら、また、みーちゃんを産みたいワ」

東京都調布市、京王線の調布駅から徒歩2分ほどのマンションの一室に、田中瑞木美術館があります。

2007年3月にオープンした美術館は、その名のとおり田中瑞木さんのすべてを感じることができる美術館です。

自然光でも明るめの室内、スポット照明で映し出された瑞木さんの絵に囲まれていると、初めのうちは、あたかも瑞木さんにじっと見つめられているような感じを受け、やがて、見る者の心を開かせてくれるような愛を感じるようになっていきます。まるで、絵の中に瑞木さんが内包され



お父様の公輝さんが、眼尻を下げて「お休みの日にみーちゃんが焼いてくれるパンが一番おいしい」とうれしそうに語っておられました。パンを焼いたり、家事をしたり、自分の身の回りのことをきちんと整えることが、田中さんは得意のようです。また、それは田中さんにとっては、幼い頃から身についた日常生活のあたりまえのことなのですね。

老人ホームでのお仕事も、家の中であたりまえにやってきたことの延長線上にあることで、ご両親がいかにか自立させることの大切さを育ててこられたかがわかります。

現在、作品の制作は、日曜日の午前中の限られた時間の中でおこなっているそうです。何事も一生懸命になりすぎて、手を抜くことのできない田中さんにとって、これくらいのペースがちょうどいいと愛子さんはおっしゃっています。このペースで描かれた作品は、年に2、3枚ほど。ときには50号を超える大作にも挑戦します。

作品はすべて、東京都調布市の私設美術館「田中瑞木美術館」に保存され、季節ごとに入れ替えられた展示を楽しむことができます。

ているかのようなのです。

訪問時は、2010年3月から栃木県那須の「もうひとつの美術館」にて開催される「花と月と時と… Spring of Tokyo」展を控え、花の絵で溢れていました。

出迎えてくださったのは瑞木さんとお母様の愛子さん。

瑞木さんはしっかり者、愛子さんはとても理知的で穏やかな雰囲気の方。現在は臨床心理士としてカウンセリングに当たる毎日を送っています。

「みーちゃんに会わなかったら、私は、もっとへんてこりんな人間になっていたでしょう。苦しみも喜びも、いろんなことを教えてくれた娘に出逢えたから、

今の私があります。生まれ変わって、また子どもを産むとしたら、また、みーちゃんを産みたいワ」とおっしゃる愛子さん。とっても素敵な親子です。

ぜひ一度訪問してみてください。

田中瑞木美術館

〒183-0024 東京都調布市布田1-32-5 マートルコート調布407号室
Tel: 0424-441-2958
Fax: 042-497-4878
開館時間: 毎日曜日午後1時～5時
入場無料
瑞木さんの作品約15点を常設展示(年3回入れ替えあり)

■「花と月と時と…Spring of Tokyo」展に田中瑞木さんが出展されます

会期: 2010年3月6日(土)～5月23日(日)
開館時間: 10:00～17:00(入館は16:30まで)月・火曜日休館(休日・祝日は別館)
場所: もうひとつの美術館
〒324-0618 栃木県那須郡那珂川町小口1181-2
Tel&Fax: 0287-92-8088
詳しくは <http://www.mobnuseum.org/>

平成22年度通常総会 開催のお知らせ

日時 2010年5月30日(日) 午前11時～12時

場所 調布市布田1-32-5 マートルコート調布407

議題 (1) 平成21年度事業報告、会計報告

(2) 役員選出

(3) 平成22年度事業計画、予算

(4) その他

正会員の方へは総会開催のはがきをお送りします。

出欠のご返事をお願いいたします。

平成22年度会費納入のお願い

新年度になりました。平成22年度会費・寄付金の納入をお願い申し上げます。美術館の活動をはじめ本法人の事業に生かしてまいります。

昨年度は、多くの方々からたくさんのご入金をいただきました。おかげをもちまして、展覧会、美術館、こころとふくしの相談室、講演会「子育ては食育から」などの活動ができました。ありがとうございました。

次号にて平成21年度の事業および会計のご報告をいたします。

今後ともよろしく願いたします。

理事長 阿部公輝

年会費

正会員 3,000円以上(活動にご参加いただけます)

協会会員 1,000円以上(会報をご購読いただけます)

賛助会 30,000円以上(法人様を対象としております)

寄付金(随時お受けしております)

振込口座

①ゆうちょ振替:00110-0-684539

②銀行振込:みずほ銀行 調布支店

普通預金 8082621

口座名称(①②とも)

特定非営利活動法人 海から海へ

編集後記

「仏陀は托鉢した」とのダライ・ラマ14世のことを読んで(毎日新聞2010年5月3日朝刊)。

「産業革命で、科学技術は精神的なものに取って代わり、お金が人々の心に浸透しました。お金は欲望、嫉妬、競争をもたらし、猜疑心を高め、人間同士の友情を破壊します。『自分は不幸だ』と感じ、酒や麻薬に依存し、欲求不満が高じ、怒りっぽくなる。

日本経済は成長しましたが、限界にも直面しました。今や経済も危機に苦しんでいます。

祈りだけでは問題は解決しません。私たちは『教育システム』を直視しなければなりません。子どもたちに、内面に存在する価値の重要性を教えるべきです。

日本人はとても勤勉です。しかし、その一方で自負心が強すぎないでしょうか。家族や隣人が苦しんでいるのであれば、救いの手を差し出さなければなりません。私たちは同じ人間です。何でも一人で解決しなくてもよいのです。頑張っても自信を持ってないなら、周囲に頼っても決して問題ではありません。

仏陀自身は托鉢しました。恥をかきながら生きるか、恥を許せず自殺しようかと迷うなら恥を選んだ方がいい。何かで失敗し、不幸にも物乞いになっても、それは恥でも何でもありません。

ダライ・ラマ氏はこのように、内面的価値を見直すために教育システムを直視すべきだと述べている。

日本では、教師は、何が大事か、何を教えるかではなく、いかに効率よく授業をするか、に一所懸命だ。一所懸命になるべきは、誰もが同じ人間であり、一人で生きるのではなく、誰かに頼って生きてよく、恥をかいても生きる、このような価値観をみなが持てるようにすることではないだろうか。そのためのシステムが必要とされているのではないだろうか。

私は障がいのある娘との生活から、教育とは教えることではなく教わることだと知った。周りの人や生き物や事物は、私たちに何を伝えようとしているのか、何を意味しているのか。そのことを聴き、教わることから、新しい世界が開ける。孤立していたのでは、狭いわずかなことしか知ることにはできない。教わり、聴きとり、恥をかいても生きることができる、そのような価値観をみなが持てるような教育システムとは、どうあるべきか、私たちは今、問われていると思う。(輝)

特定非営利活動法人 海から海へ

<http://umi.or.jp> office@umi.or.jp

2010年5月19日 海から海へ No.24

編集責任者 阿部公輝

〒182-0024 東京都調布市布田1-32-5

マートルコート調布407

Tel 042-441-2958 Fax 042-497-4878

発行所 〒157-0073 東京都世田谷区砧6-26-21

特定非営利活動法人障害者団体定期刊行物協会

定価 200円

無断転載禁止